

特別活動「学校行事」

特別支援学校との交流

期待できる効果

●こんな子どもの姿を期待できます

- ・パラリンピックや障害者スポーツへの理解を深め、関心を高めた子ども
- ・運動やスポーツを支えるというかわり方を体感する子ども
- ・運動やスポーツを楽しむ方法を考え、工夫し、生み出す子ども

1 運動を通した他校との
交流学习(高等学校)

高等学校の生徒が、近隣の特別支援学校を訪問しスポーツを通して交流を図りました。特別支援学校の先生の協力を得ながら、持久走大会の運営補助に参加させていただきました。陸上部の生徒を中心に準備運動の指導を任せていただきました。大会の中で、補助が必要な幼児・児童・生徒へ声かけが上手になってきたり、補助の仕方が分かってきたり、応援の大きさを感じ取ったりすることができました。伴走体験では、直接体に触れることができない制限の中、選手が力を発揮できるようにどのような支え方があるのか考えることができました。自分が競技者としてだけでなく、応援する、運営する、競技者を支える側の人がいることを知り、多様なかわり方を体感することができました。ボランティアとしてオリ・パラに関わることの可能性を感じ取ることができた生徒が多くみられました。

2 運動を通した他校との
交流学习(中学校)

まず、パラリンピック銀メダリストの道下選手と伴走者の方と交流をしました。ブラインドランニング体験や伴走者体験を行いました。その後、他のパラリンピック種目について調べ、ボッチャを体験する学習をしました。そして、近隣の特別支援学校とのボッチャを通した交流を行いました。ボッチャ以外にも、パラリンピック種目にこだわらず、相手校の実態をお聞きし、実態に合ったアダプテッドスポーツを見つけて様々な種目を準備し、楽しく交流を図りました。今まで関わりの少なかった特別支援学校の子どもたちとの交流を通して、パラリンピックに対する興味を高め、障害に対する偏見をもつことなく公平に接する態度、共に楽しむために必要な工夫や相手が必要とする支援について考える力を育むことができました。



ココがポイントです！

- ①運動やスポーツを通して、特別支援学校や特別支援学級との交流をすることは大変有効です。
- ②交流を通して、子どもが考えた様々なことを振り返りまとめる時間を設定することが大事です。

高等学校の交流の様子



実践後の子どもの感想

- 頑張ることの大切さを教えてもらいました。また、交流したいと思います。
- パラリンピックを見たいと思いました。ボランティアで支えたいと思いました。
- この交流を通して、オリンピック・パラリンピックに対して今までと異なる角度から見る力がつきました。